

第1回 旧新豊町小学校跡地整備基本構想検討懇話会

日時:令和7年5月29日(木) 16:30~

場所:金沢市役所第二本庁舎 2階2203会議室

次第

1. 開 会
2. 市長挨拶
3. 座長選任
4. 議 事
 - (1)事務局からの資料説明
 - (2)意見交換
5. 閉 会

委員名簿

(敬称略)

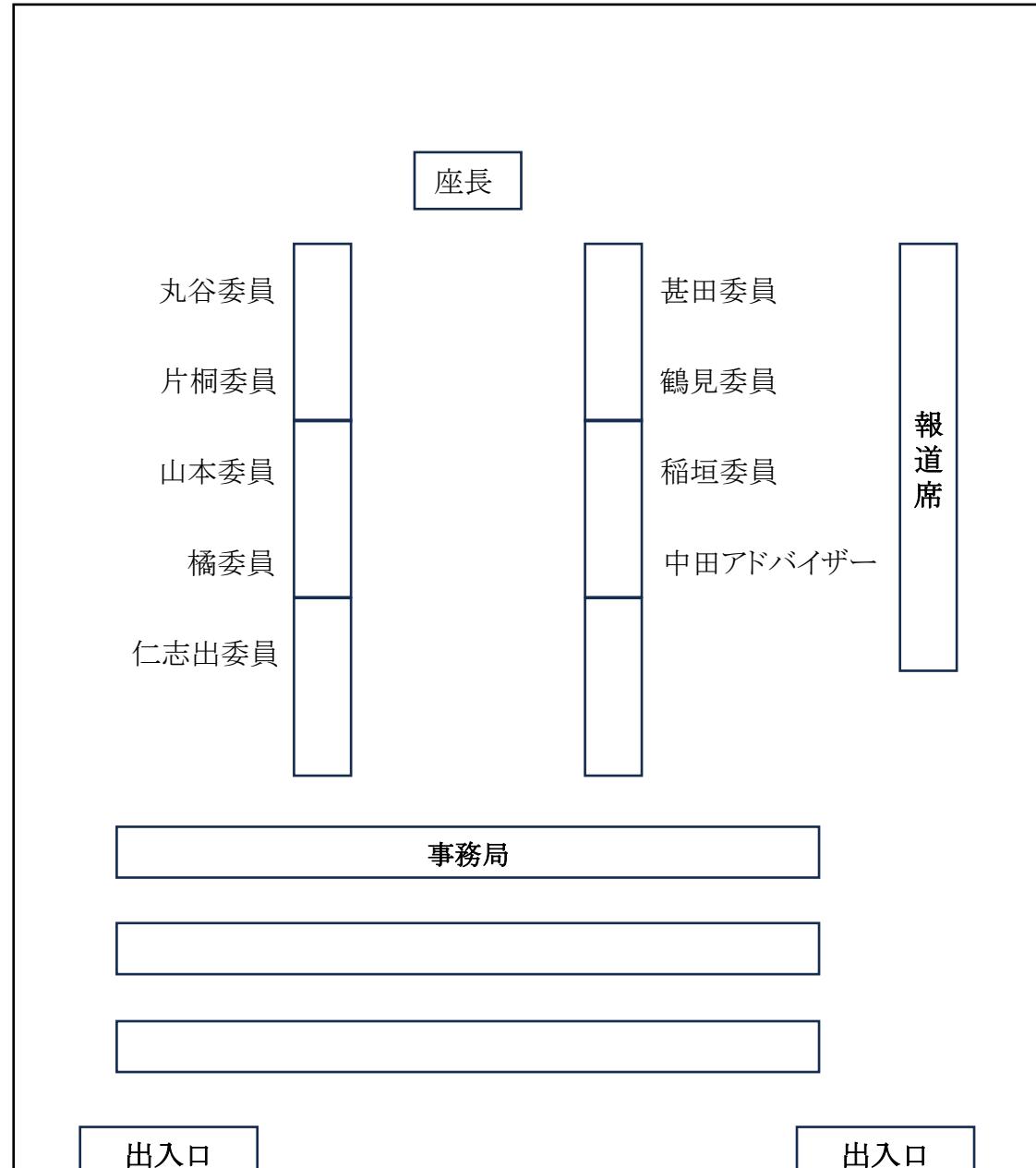
氏名	団体・役職
丸 谷 耕 太	金沢大学融合研究域融合科学系 准教授
片 桐 由希子	金沢工業大学工学部 准教授
山 本 修	公益社団法人大学コンソーシアム石川 事務局長
橋 泰 至	協働をすすめる市民会議 委員
仁志出 憲 聖	株式会社ガクトラボ 代表取締役
甚 田 和 幸	新堅町地区町会連合会 会長
鶴 見 あゆみ	新堅町公民館 副館長
稻 垣 早 紀	未来へつなぐ金沢行動会議 委員

アドバイザー

中 田 明 秀	市民活動サポートセンター チーフコーディネーター
---------	--------------------------

事務局 都市政策局企画調整課

座席図



旧新堅町小学校跡地整備 基本構想の策定に向けて

令和7年5月29日
金沢市



1. 検討懇話会について
2. 旧新豊町小学校跡地の概況
3. これまでの経緯
4. 現状と課題及び方向性（案）
5. 第1回会議における意見交換の論点
6. 今後のスケジュール

（1）設置の目的

大学サテライト機能を備えた交流拠点施設の整備に向けた基本構想を策定するため、学識経験者や大学関係者をはじめ、地元関係者等で構成する懇話会を設置

（2）検討事項

- ・ 旧新豊町小学校跡地の現況、立地特性、周辺環境等に関する事項
- ・ 旧新豊町小学校跡地に整備する施設の機能及び役割に関する事項 など

（3）基本構想の内容

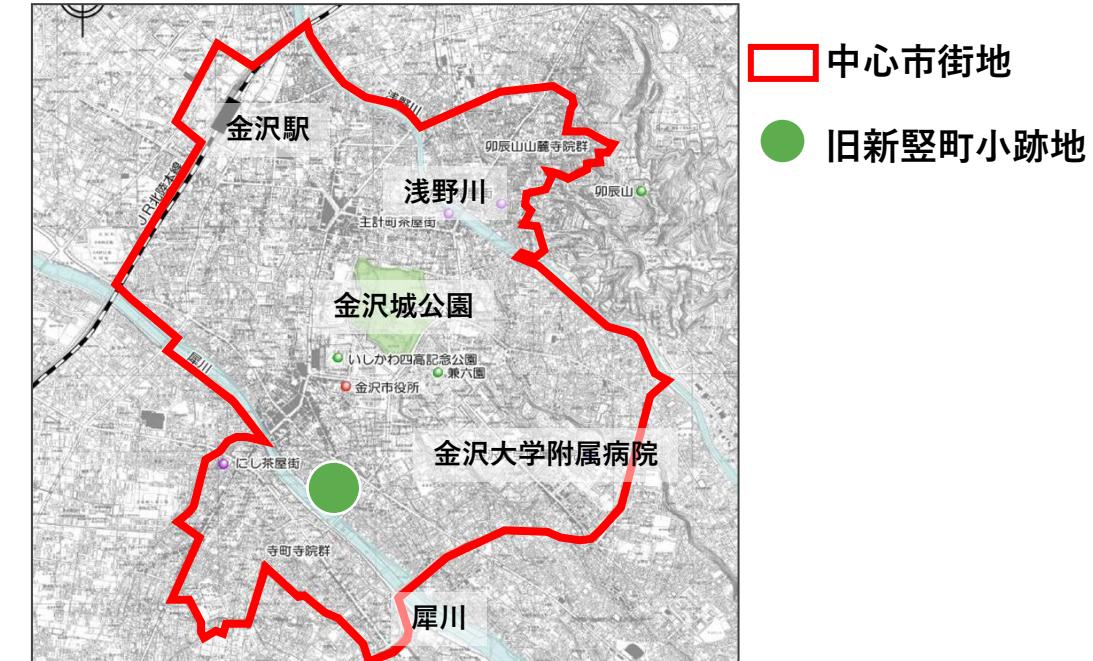
- ・ 施設の基本的な考え方やコンセプト
- ・ 必要な機能や役割

など、今後の具体的、技術的な検討の基礎となる方針を取りまとめ

2. 旧新堅町小学校跡地の概況

3

(1) 跡地の位置



隣接する施設等

- 北側 新堅会館（新堅町公民館）
- 東側 本多通り（広坂・新桜坂線）を挟んで
石川県幸町庁舎
- 西側 新堅町商店街

(2) 旧新豊町小学校の歴史

年表（主な出来事）

明治	3年	11月	河原町小学所として創立	
	19年	7月	現在地に校舎新築	
大正	3年	9月	菊川町小学校創立に伴い一部児童分離	
昭和	22年	4月	金沢市立新豊町小学校に改称	約150年
	39年	3月	校舎改築落成	
平成	22年	11月	創立140周年記念式	
	31年	3月	菊川町小学校との統合に伴い閉校	

出所：金沢市立新豊町小学校 旧ホームページ- 国立国会図書館Web Archiving Project
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1938754/www.kanazawa-city.ed.jp/shintate-e/gakkousyoukai/scinfo1.htm>

著名な出身者

- ・三宅 雪嶺（哲学者・思想家）
- ・鈴木 大拙（仏教哲学者）
- ・藤岡 作太郎（国文学者）
- ・林 銑十郎（内閣総理大臣）
- ・阿部 信行（内閣総理大臣）
- ・永井柳太郎（政治家）など

2. 旧新豊町小学校跡地の概況

5

(3) 施設の状況（土地・建物）



土地

地番	新豊町3丁目25番1ほか15筆
敷地面積	建物敷地 : 4,516m ² 運動場敷地 : 4,663m ² 計9,179m ²

接道状況

①本多通り側



②新豊町商店街側

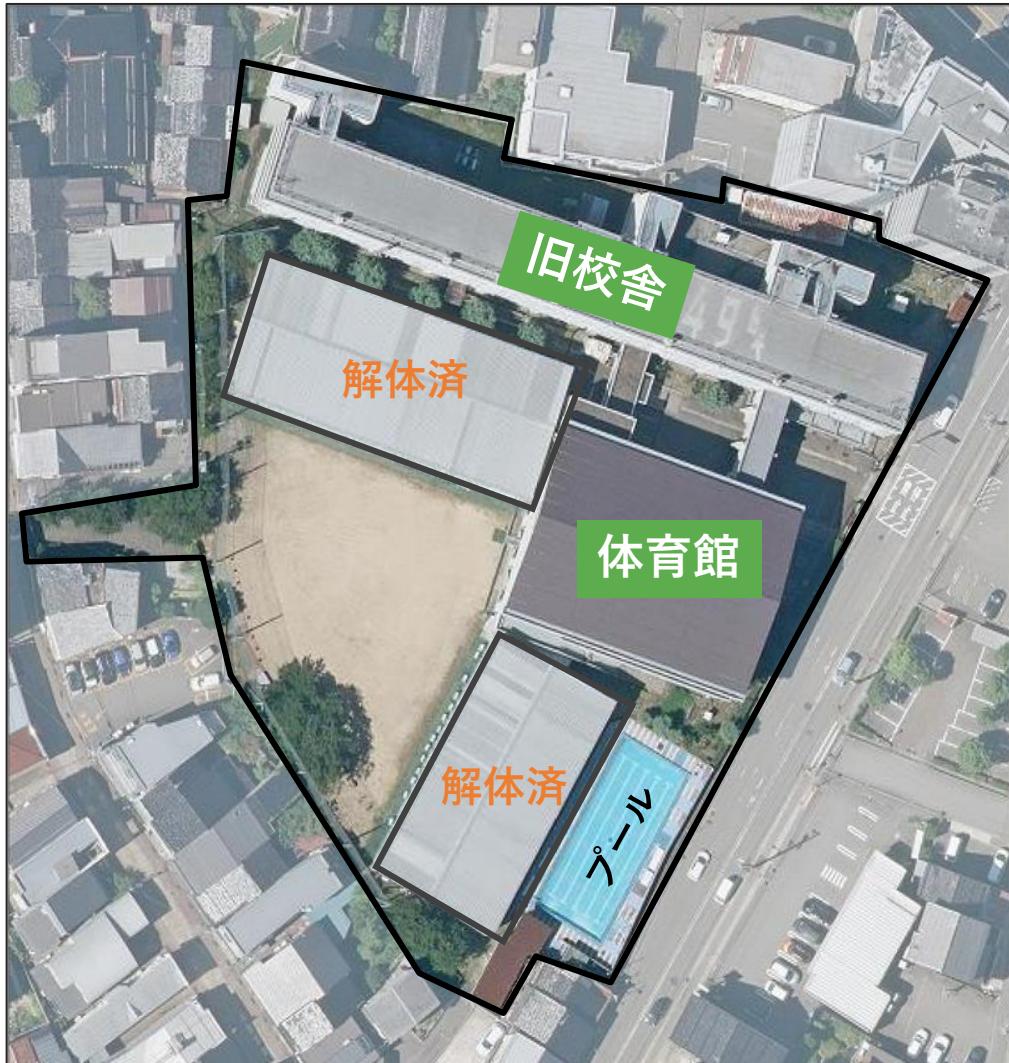


③新豊会館側



2. 旧新豊町小学校跡地の概況

(3) 施設の状況（土地・建物）



旧校舎

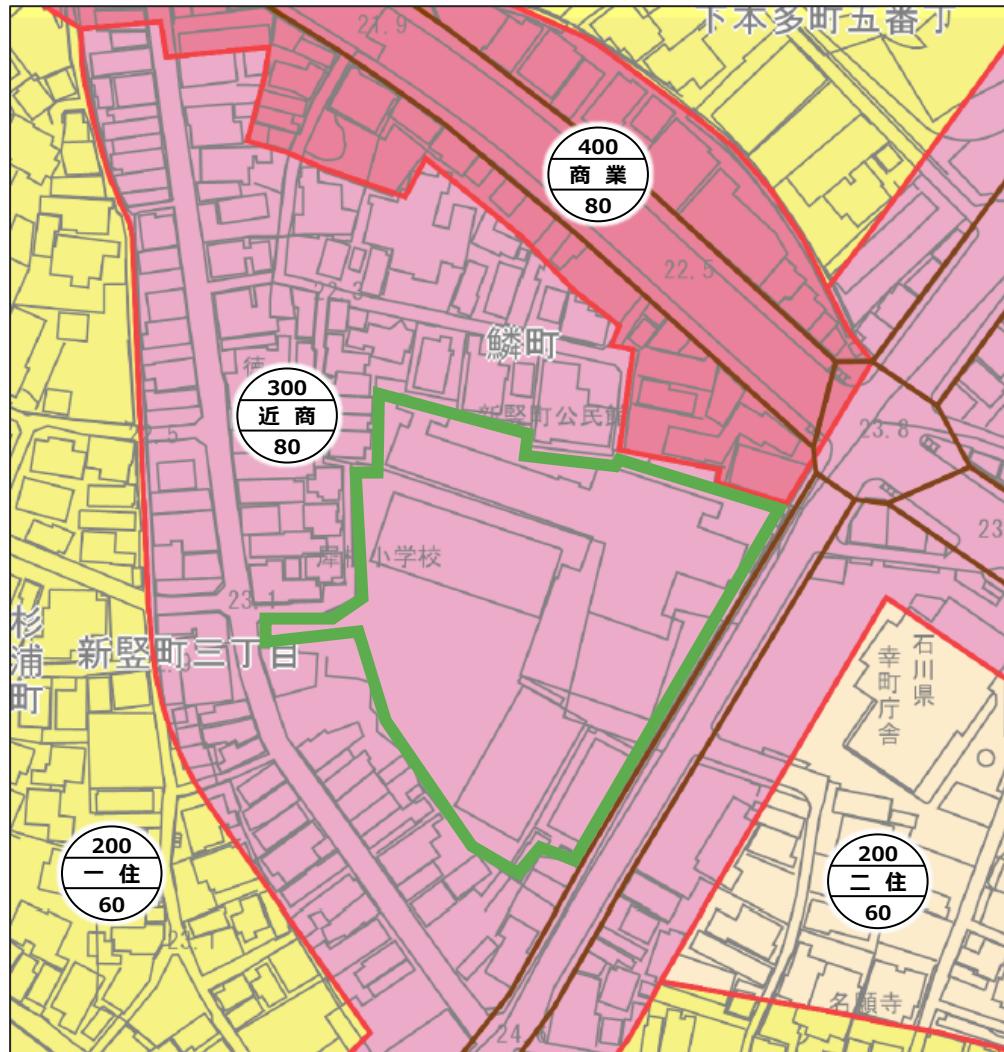
構造	鉄筋コンクリート造 4 階建
延床面積	4,526m ²
建築年	1960（昭和35）～1963（昭和38）年
耐震性	未耐震

体育館

構造	鉄筋コンクリート造 2 階建
延床面積	863m ² （1階ピロティ部分は床面積なし）
建築年	1979（昭和54）年
耐震性	補強済（H21）

2. 旧新豊町小学校跡地の概況

(4) 法令等の状況



都市計画関連

用途地域 近隣商業地域

建ぺい率 80%

容積率 300%

高度地区 18m高度地区

防災関連

洪水浸水想定区域 犀川

想定災害規模 0.5m以上～3.0m未満

液状化危険度 低い

避難所 拠点避難所に指定

防災設備 備蓄倉庫、同報防災無線、
防火水槽

2. 旧新豊町小学校跡地の概況

（5）周辺環境

居住



こまちなみ保存区域（水溜町）

- まちなみには歴史的風情が残る。
 - 居住エリアには木造住宅が密集している。
 - 地区内には遊具付きの公園・緑地がない。

商業



新豎町商店街



豎町商店街

- 隣接する新豊町商店街、豊町商店街をはじめ、地区内には柿木畠商店街、広坂商店街の4つの個性豊かな商店街が賑わう。

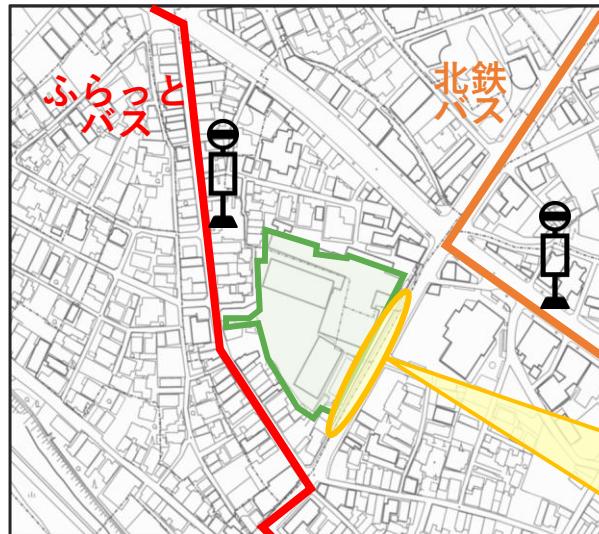
2. 旧新豊町小学校跡地の概況

(5) 周辺環境

自然



交通



前面歩道

- 芝生が敷かれた広い河川敷を有する犀川では、散歩や桜並木を楽しむ人々の憩いの場となっている。
- 近年では、官民連携による河川敷の日常的な利活用を促進する取組も行われている。

- 新豊町商店街は金沢ふらっとバス（菊川ルート）の路線になっている。
- 東側の広坂・新桜坂線は歩道幅員が約1.5mと狭い。

2. 旧新豊町小学校跡地の概況

(6) 立地特性



市の中心部に位置

- ・中心市街地内に位置
- ・集約都市形成計画上の都市機能誘導区域
- ・公共施設が集積

歴史文化遺産や文化施設が集積

- ・金沢21世紀美術館や本多町歴史文化ゾーン、寺町寺院群などに近接

商業環境と居住環境が調和

- ・片町、香林坊など商業の中心地に近接
- ・魅力的な商店街の背後には住宅地が広がる
- ・自然豊かな犀川に近接

地域だけでなく多様な人々が交流し、まち全体の活性化に資する場所

3. これまでの経緯

跡地利活用に関する主な経緯

地域の取組

市の取組

平成31年3月 閉校

H31.4～R4.3
犀桜小学校
仮校舎

令和2年

金沢大学丸谷研究室と共同で
「新堅町地区未来像策定事業」を実施
※金沢市地域コミュニティ活性化事業採択事業

新堅町地区未来像：3つの軸

1. 多様な人が活躍し、それを応援できるまち
2. 歩いて楽しい緑のまち
3. 日常の会話から新しいアイデアが生まれるまち

R4.4～R6.3
中央小学校
芳斎分校仮校舎

令和4年

新堅町地区各種団体連絡協議会が
跡地利活用に関する要望書を市へ提出

- 大学等の教育実践施設の誘致
- 住民交流の場の確保
- 防災機能の強化 など

令和6年

部局横断のプロジェクトチームを設置し
跡地利活用に向けた本格的な検討を開始

主な意見
• 子どもが遊べる空間
• 多様な世代の交流促進 など

新堅町地区各種団体関係者等との
意見交換会を計3回実施

施設の状況等	立地特性・周辺環境	地元からの要望
<ul style="list-style-type: none"> まちなかの広大な土地 校舎は老朽化しており、未耐震 新豎会館や新豎町商店街に隣接 拠点避難所だが、浸水想定区域内 	<ul style="list-style-type: none"> まち全体の活性化に資する場所 周辺に木造住宅が密集 遊具付きの公園がない 商店街や犀川で賑わいが創出 東側道路は歩道が狭い 	<ul style="list-style-type: none"> 大学等の教育実践施設の誘致 住民交流の場の確保 防災機能の強化 子どもが遊べる空間の確保 多様な世代の交流促進

大学サテライト機能を備えた交流拠点施設を整備

多様な主体の活動

- 大学等のまちなか活動拠点となる大学サテライト機能
- 市民活動の拠点となる機能など

幅広い世代の交流

- 誰もが気軽に利用できる開かれた交流空間
- 隣接する新豎会館や豎町・新豎町商店街を含む周辺との回遊性など

地域の安全安心

- 浸水想定区域であることを踏まえた拠点避難所のあり方
- 周辺道路の歩行環境など

- ・現状と課題についての補足事項
 - ・施設の基本的な方向性
 - ・必要な機能、想定される活動
- など

第1回会議（本日） 現状と課題の整理

第2回会議 基本構想の骨子案を提示

第3回会議 基本構想（案）をとりまとめ

年度内 基本構想策定

本市の学校跡地活用事例



俵芸術スタジオ（平成30年供用開始）

旧俵小学校（H26.3閉校）の校舎を活用
芸術文化に関連する練習・創作の場、
市民相互の交流の場



金沢未来のまち創造館（令和3年供用開始）

旧野町小学校（H26.3閉校）の校舎を活用
新たな産業の創出と未来で活躍する人材の
輩出を図る、官民連携型の価値創造拠点

未来共創計画との関連性

基本方針2 多様な人々が共生し、心豊かに暮らせるまち～暮らしづくり～

施策方針1 多様な主体の協働による元気で活力あふれる地域コミュニティの醸成

取組の方向性① 民間事業者や学生など多様な主体の活躍と世代間の連携による地域コミュニティの活性化

基本方針3 共に学び、未来を創る人を育むまち ～人づくり～

施策方針3 学都の強みを生かした次代の担い手育成

取組の方向性③ 高等教育機関との連携による人材の輩出と学術活動に資する基盤・施設整備

まちなかに学生を呼び込むとともに、地域における学術活動を促進する拠点の設置を検討します。

基本方針5 活力と個性があふれ、安全で持続可能なまち ～都市づくり～

施策方針5 災害に強く効率的で質の高い都市運営の実践

取組の方向性② 都市防災機能の向上と快適な生活環境の形成

統合や移転に伴う学校跡地について、立地特性や防災拠点としての機能を踏まえつつ、地域の活性化につながる利活用の方向性等を検討します。